

2022年6月14日

UNEPフォーラム2022

UNEA5.2, UNEP@50, Stockholm+50を振り返る

Reflections of UNEA5.2, UNEP@50 and Stockholm+50

地球環境課題に関する国際プロセスのハイライト2022

Highlights of International Processes on Global Environmental Challenges in 2020

IGES 戦略マネジメントオフィス / IGES Strategic Management Office

ナレッジ・コミュニケーションディレクター / Director of Knowledge and Communications

大塚 隆志 / OTSUKA Takashi

2021-2022 主要国際環境プロセス

2021-2022 Major International Environmental Processes



未来を決定する10年 / Decisive Decade

- 気温上昇を1.5°Cまでに抑えるためには、**二酸化炭素（CO₂）排出量を2030年までに2010年比約45%削減**、2050年前後には正味ゼロに達する必要がある（IPCC 1.5度特別報告書, 2018）
- **2025年までに温室効果ガスを増加から減少に転じさせる**ことが必要（IPCC AR6-WGIII, 2022）
- **2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる**。そのために2030年までに自国の陸域・海域の少なくとも30%を保全・保護することの達成を目指す（ポスト2020生物多様性枠組みの主要目標のひとつとして協議中）
- 健全な地球を取り戻すためには、**現在の経済システム全体への変革を取り入れる**（Stockholm+50 Recommendations から抜粋）
- 食料、エネルギー、水、建物、建設、製造、モビリティなど、**影響の大きいセクターのシステム全体の変革を加速させる**（同上）

大きな流れはどこに向かっているのか？ What are the major trends?

● プラネタリーバウンダリー課題への取り組みの前進

- ✓ 未来を決定する10年
- ✓ 行動の10年

● 統合的アプローチの進展

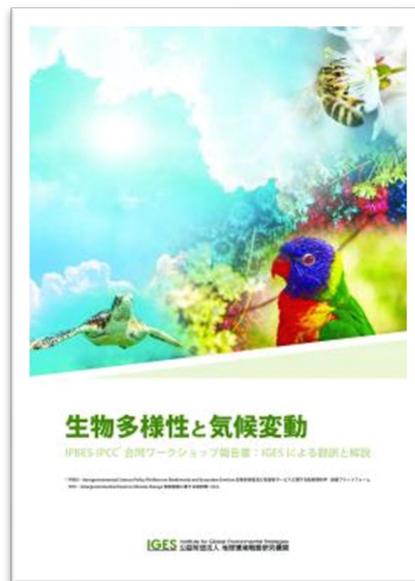
- ✓ 気候変動とSDGs
- ✓ 気候変動と生物多様性

● 自然との関係の再構築

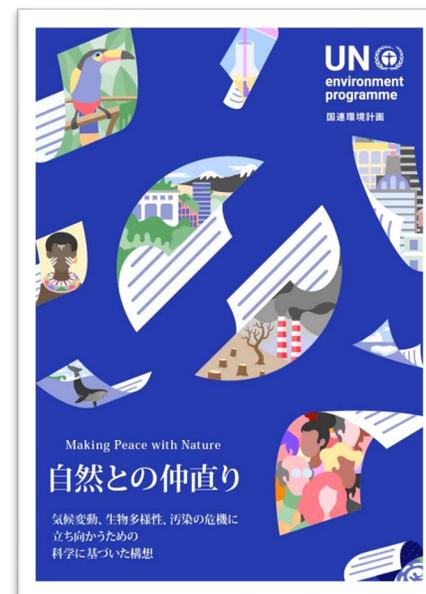
- ✓ 自然との仲直り
- ✓ One Healthアプローチ

● 社会経済システムの転換

- ✓ エネルギーシステム、食料システム、
循環経済、ライフスタイル



Source: [https://www.iges.or.jp/jp/pub/ipbes-
ipcc-ws/ja](https://www.iges.or.jp/jp/pub/ipbes-
ipcc-ws/ja)



Source: <https://j-unesp.jp/publications/#24>

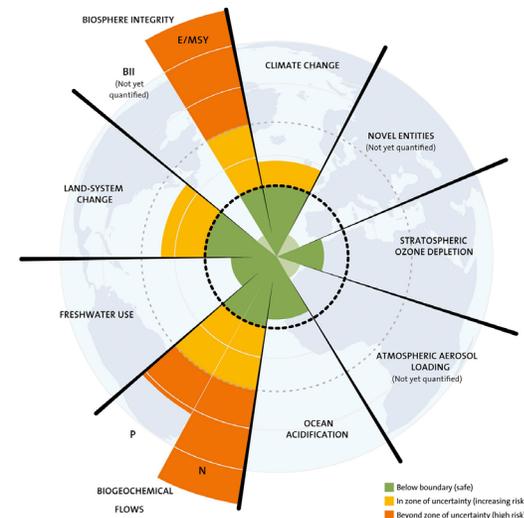


Image source: F. Pharand-Deschênes /Globaia
<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2015-01-15-planetary-boundaries---an-update.html>

UNEA5.2のハイライト (1)

Highlights of UNEA5.2 (1)

- 第5回国連環境総会 再開セッション (UNEA5.2)
- 2022年2月28日～3月2日@ナイロビ (ケニア)
- テーマ 「持続可能な開発目標の達成に向けた自然のための行動強化」**

●14の決議

- ✓海洋 / プラスチック汚染 (1)
- ✓自然に基づく解決策と生物多様性 (4)
- ✓化学物質と鉱物 (3)
- ✓グリーン・リカバリーと循環経済 (4)
- ✓組織と運営事項 (2)

●閣僚宣言

- ✓「持続可能な開発目標の達成に向けた自然のための行動強化」



Photo by IISD/ENB Photographer Kiara Worth

<https://enb.iisd.org/media/dais-gives-standing-ovation-response-adoption-resolution-global-plastic-pollution-treaty-2>

UNEA5.2のハイライト (2) 決議一覧

Highlights of UNEA5.2 (2) List of Decisions

海洋 / プラスチック汚染	決議14：プラスチック汚染を終わらせる：国際的に法的拘束力のある国際約束に向けて
自然に基づく解決策と生物多様性	決議1：動物福祉-環境-持続可能な開発のネクサス
	決議4：持続可能な湖沼管理
	決議5：持続可能な発展のための自然に基づく解決策
	決議6：生物多様性と健康 (*One Health アプローチ)
化学物質と鉱物	決議2：持続可能な窒素管理
	決議7：化学物質と廃棄物の健全な管理
	決議8：化学物質や廃棄物の健全な管理、公害防止により貢献する科学・政策パネル
グリーン・リカバリーと循環経済	決議9：持続可能で回復力のあるインフラ
	決議10：コロナからの持続可能で強靱かつ包摂的な復興における環境側面
	決議11：持続可能な消費と生産の実現に貢献する循環経済の強化
	決議12：鉱物・金属資源管理における環境側面
組織と運営事項	決議3：GEOの将来
	決議13：国連憲章第101条第3項に基づく衡平な地理的代表とバランスの順守

UNEA5.2のハイライト (3)

Highlights of UNEA5.2 (3)

決議14：プラスチック汚染を終わらせる：国際的に法的拘束力のある国際約束に向けて UNEP/EA.5/Res.14 End plastic pollution: Towards an international legally binding instrument

- 認識の共有
 - ✓ プラスチックの有用性を認識しつつ、海洋を含む環境におけるプラスチック汚染が地球規模の喫緊の課題
 - ✓ 世界規模で効果的で進歩的な行動の促進が喫緊に必要
 - ✓ プラスチック汚染は越境性を有しており海洋環境及びその他環境での対策が必要
 - ✓ プラスチックのライフサイクル全体を踏まえた対策を講じる必要
- **国際約束の作成に向けて**、2022年の後半に**政府間交渉委員会（INC）を開始**
 - ✓ 2024年末までの作業完了を野心を持って目指す
- INCでの検討課題
 - ✓ 国際約束の目的の特定
 - ✓ プラスチックの持続可能な生産と消費の促進（製品設計、環境上適正な廃棄物管理等を含む）
 - ✓ 海洋環境におけるプラスチック汚染の削減のための国内外の協同的取組の促進
 - ✓ 国別行動計画の策定・実施・更新等
- 各国に対し既存の自主的な行動の継続・強化を呼びかけ
- あらゆるステークホルダーに対し開かれた情報・活動の交換を行うためのフォーラムを開催する

UNEA5.2のハイライト (4)

Highlights of UNEA5.2 (4)

閣僚宣言「持続可能な開発目標の達成に向けた自然のための行動強化」 (その1)

UNEP/EA.5/HLS.1 Ministerial declaration: Strengthening actions for nature to achieve the Sustainable Development Goals

- 世界中のプラスチック汚染を終わらせるため、**プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際約束策定のための政府間交渉委員会の設立を決定したことを歓迎**する。(パラ 3)
- 生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (IPBES) の調査結果に深い懸念を示し、人類史上前例のない、**生物多様性の地球規模の減少と生息地の分断を止めることが緊急に必要**であることを強調する。(パラ 6)
- 自然の価値を評価する革新的かつ包括的なアプローチを通じて、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に資するために資金の流れを再調整する。(パラ 9)
- エジプトにおける国連気候変動枠組条約第 27 回締約国会議を成功させ、**気候変動に取り組むためのグローバルな行動を更に強化**することにコミットする。(パラ 11)
- 野心的かつ変革的な**ポスト2020 生物多様性枠組を生物多様性条約第 15 回締約国会議第二部で採択**するよう求める。(パラ 12)
- 経済と生活の活性化及び貧困の終焉を目指し、**包摂的で持続可能な復興とグリーンかつ公正な移行を推進**することにコミットする。(パラ 14)
- **国連生態系回復の10年**へのコミットメントを再確認し、生物多様性にとって特に重要な地域に焦点を当て、**生態系の損失、劣化及び分断を止める**ために、あらゆるセクター及び政府レベル、並びに政府間で取り組む (パラ 15)

UNEA5.2のハイライト (5)

Highlights of UNEA5.2 (5)

閣僚宣言「持続可能な開発目標の達成に向けた自然のための行動強化」 (その2)

UNEP/EA.5/HLS.1 Ministerial declaration: Strengthening actions for nature to achieve the Sustainable Development Goals (continued)

- 自然資源の保全と持続可能な利用・管理を促進し、**資源効率と循環型経済の政策アプローチ**を含め、政策立案において自然の評価と自然関連リスクの評価の適切な方法を適用することにより、**持続可能な消費と生産パターンを推進**することにコミットする。(パラ16)
- 森林破壊と森林劣化を削減し、劣化した土地、土壌、生態系の保護、保全、持続可能な管理、回復によって、**生態系を活用したアプローチと自然を活用した解決策を促進、強化**する。(パラ17)
- 気候変動、生物多様性及び汚染に関する効果的な行動及び政策立案のための**最善の科学の重要性を認識し**、この重要な10年間に緩和、適応及び資金に関する**野心と行動を強化**することの緊急性を強調する。(パラ18)
- 持続可能な開発のための重要な手段として、国による強固な執行を伴う包括的な土地・水利用計画を推進し、**持続可能な生産とバリューチェーンへの投資**を促すようなビジネス環境の整備を支援するための国際協力を奨励する。(パラ19)
- セクターを超えた新しく革新的な**パートナーシップを追求**し、さらに、**全ての関係者を巻き込み**、自然のための行動を展開し、環境に対する根強い負の長期トレンドを逆転させることにコミットする。(パラ22)
- 強化された**食料安全保障と回復力**を提供しイノベーションを促進する観点から、他の政府及び地域の関係者並びに民間セクターと連携し、セクター及び政府のレベルを超えて協力することにコミットする。(パラ24)
- 国連環境計画事務局長に対し、ストックホルム+50 国際会議の事務局長として、この宣言を国連環境会議の意見として同会議へ提出することを要請する。(パラ28)

UNEP@50のハイライト (1) / Highlights of UNEP@50 (1)

- UNEP創設50周年記念イベント (UNEP@50)
- 2022年3月3~4日@ナイロビ (ケニア)
- **テーマ「持続可能な開発のための2030アジェンダの環境的側面の実施に向けたUNEPの強化」**

- 「科学と政策のインターフェース」に関するUNEP事務局長報告
- 「私たちが望むUNEP」に関するステークホルダー報告書
- **政治宣言**
国連環境計画設立50周年を記念する
国連環境総会特別セッションの政治宣言



Photo by IISD/ENB Photographer Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/family-photo-participants-unesp50-unesp50-3mar22-photo>

UNEP@50のハイライト (2) / Highlights of UNEP@50 (2)

「科学と政策のインターフェース」に関するUNEP事務局長報告 Report of the Executive Director on the science-policy interface

- 国連環境計画における科学と政策のインターフェース強化に関する決議4/23の実施の進捗状況 (UNEP/EA.SS.1/2)
- 科学的な証拠の提示と政策の実行との間に**常に遅れが生じる**
- 脅威と解決策に関するリアルタイムの情報を通じて科学と政策の間の**タイムギャップを埋める必要**
- 科学と政策のインターフェースにおいて**解決策を重視**する必要
- 先住民や伝統的知識を含むあらゆる種類の情報源**と関わる必要
- コミュニケーションと関与の促進剤として**デジタル化を加速**させる必要

UNEP@50のハイライト (3) / Highlights of UNEP@50 (3)

「私たちが望むUNEP」に関するステークホルダー報告書 Stakeholder report entitled “The UNEP We Want”

- 「科学技術コミュニティ」及び「ユース」の2つの主要グループが主導
- 共同声明
 - ✓ **UNEP**のマンデート、権限、パワー、リソース、そして特に国や地方における非国家主体の関与のプロセスは、1972年に国際社会が設定した目標を達成するには、**未だ不十分**。
 - ✓ 次の50年にUNEPに望むのは、**環境ガバナンス**を自らの業務と多国間協定に組み込むことができる能力。
- 会場での発言
 - ✓ 時間は刻々と過ぎていく。環境危機を解決するための時間は、今後50年もない。
(ユース代表)
 - ✓ 報告書メッセージのキーワードは「**多様性**」「**衡平性**」「**認知**」。主要グループや他のステークホルダーが、多様な利益を代表していることを認知する必要。UNEPは草の根や地域レベルの関係者とより効果的に関わるのが重要。(科学技術コミュニティ代表)

UNEP@50のハイライト (4) / Highlights of UNEP@50 (4)

国連環境計画設立50周年を記念する国連環境総会特別セッションの政治宣言 / Political Declaration

- **清潔で健康的かつ持続可能な環境は、人権を享受するために重要**であることを認識する。
- 現在及び将来の世代のために、保全、回復及び持続可能な利用を強化し、促進することが**緊急の必要性であり、共通の目的**であることを認識する。
- 貧困を撲滅し、**持続不可能な消費と生産のパターンを変え、持続可能なものにする**ことが、持続可能な開発の包括的な目的であり、そのための不可欠な要件であることを再確認する。
- 多国間のプロセスを通じて、環境に関する法の支配と効果的な**国際環境ガバナンス**を促進することの重要性を認識し、また、国際環境法の下での義務の遵守を促進するためには、効果的な**国内法的枠組みとガバナンス構造**が極めて重要であることを認識する。
- 国際環境法の下での既存の義務の履行を強化するための**あらゆるレベルでの新たな努力を要請**する。
- **多国間環境協定とUNEP**の独立性とそれぞれのマンデートを尊重しつつ、その**連携と協力の強化**への支持を改めて表明する。
- 普遍的なメンバーシップの重要性、事務局スタッフの公平な地理的分布と男女平等を推進することの重要性を強調しつつ、**UNEP本部と各地域事務所の強化**を支持する。
- 国際環境法およびガバナンスに関する政府間討議、交渉、審議、政策決定を支援するため、**科学と政策のインターフェース**を促進し強化するうえで、UNEPが果たす重要な役割を支援する。
- 環境問題における**情報へのアクセス、意思決定プロセスへの市民参加、司法へのアクセス**の重要性を認識する。
- 加盟国および専門機関のメンバーに対し、能力開発、技術、財政支援など、あらゆる種類の実施手段の提供および動員を強化するよう求める。

Stockholm+50のハイライト (1) / Highlights of Stockholm+50 (1)

- **ストックホルム+50:**
すべての人の繁栄のための健全な地球 – 私たちの責任、私たちの機会
- 2022年6月2～3日@ストックホルム（スウェーデン）
- **3つの関与原則(Engagement Principle)**
 - ✓ 「世代をまたぐ責任」・「実行の機会」・「ステークホルダー間と政策課題間の相互の繋がり」
- **3つのリーダーシップ対話テーマ**
 - ✓ 健全な地球とすべての人の繁栄を実現するための行動が急務であることの振り返り
 - ✓ COVID-19パンデミックからの持続可能で包摂的な復興の達成
 - ✓ 「行動の10年」の文脈における持続可能な開発の環境側面の実施の加速
- **成果文書**
 - ✓ 行動のための提言とメッセージ



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/family-photo-high-level-dignitaries-attending-stockholm50-stockholm50-2june22-photo>

Stockholm+50のハイライト (2) / Highlights of Stockholm+50 (2)

1972年のストックホルム会議への参加により、
自らのライフワークとなった地球規模環境課題への取り組みは、
世代を超えて引き継がれていく...

50年の間に多くの進捗があった一方で、
気候変動をはじめとする喫緊の課題の解決のためには、
私たちには次の50年を待つ余裕はない...

特に気候変動課題については、最新のIPCC報告書の内容を踏まえ、
ここ数年間が正念場である。

私たちには知識があり、問題を解決するためのツールもある。
今こそ、これを使うときである。

カール16世グスタフ スウェーデン国王陛下



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/carl-xvi-gustaf-king-sweden-stockholm50-2jun22-photo>

Stockholm+50のハイライト (3) / Highlights of Stockholm+50 (3)



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/magdalena-andersson-prime-minister-sweden-stockholm50-2jun22-photo>

地球上のすべての人々、
そして将来世代との約束をするために集った。

すべての国が取り残されることなく、
緑の変革 (Green Transition) を進める必要がある
そして、個人のレベルでも誰も取り残されてはならない
変革は、社会的にかつ包摂的に履行されて初めて成就される。

これは、我々にとっての**オプション**ではなく**道義的責任**
(moral obligation) である。

50年前の約束、さらにこれまでに交わされた約束を履行する時である。

おしゃべりはもう十分、**今こそ実施の時**である。

マグダレナ・アンデション スウェーデン首相

Stockholm+50のハイライト (4) / Highlights of Stockholm+50 (4)



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/uhuru-kenyatta-president-kenya-stockholm50-2jun22-photo>

この会議は、環境危機を回避するための行動を加速し、環境的に持続可能な未来への道筋を明確にすることを目指す。

3つの地球規模の環境危機は、
現在、世界的な議論の中心となっている。

私たち全員が、この会議によってもたらされた機会を捉え、
今後の環境行動のペースと質を変えて行こう。

この会議の共同主催者として、皆様を歓迎する。
そして、私たちが共通の持続可能で豊かな未来を形作るために、
みなさん一人ひとりが実りある議論をされることを祈念する。

ウフル・ケニヤッタ ケニア大統領

Stockholm+50のハイライト (5) / Highlights of Stockholm+50 (6)



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/antonio-guterres-un-secretary-general-stockholm50-2jun22-photo>

今日、私は各国に対し、
クリーンで健全な環境に対する人権を、
あらゆる局面において、
特に貧しいコミュニティ、女性と少女、先住民族、若者、
そして来るべき世代のために尊重することを強く求めます。

1972年のストックホルム宣言で謳われた責任の精神を、
言葉と行動の両方で改めて示しましょう (recommit)。

なぜなら、地球はたったひとつしかないからです。

アントニオ・グテーレス 国連事務総長

Stockholm+50のハイライト (7) / Highlights of Stockholm+50 (7)



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/inger-andersen-secretary-general-stockholm50-and-executive-director-un-environment-programme>

50年前、先見の明のあるリーダーたちが
ストックホルムに集まり、環境保護の運動を開始しました。

これからの数日、数ヶ月、数年の間に、
我々は、この運動を終わらせる存在に
なるうではありませんか。

未来の世代のためにパラダイムシフトを起こすことを通じて。

インガー・アンダーセン UNEP事務局長 /
Stockholm+50 事務局長

Stockholm+50のハイライト (8) / Highlights of Stockholm+50 (8)

これまでIPCCが最新の科学を提示し続けてきたにもかかわらず、
リーダーたちは必要な意思決定と行動をしてこなかった。

その結果、住むことのできない地球が、
将来世代に手渡されようとしている。

ヴァネッサ・ナカテ *Rise Up Movement*



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/vanessa-nakate-rise-movement-stockholm50-2june22-photo>

Vanessaの指摘は正しい。

政治家は地球の危機に無関心か、あるいは無視をして、
普通の人々が常識だと考える
必要な意思決定と行動をしていない。

ジョン・ケリー 米国気候変動担当大統領特使



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/john-kerry-special-presidential-envoy-climate-us-stockholm50-2june22-photo>

Stockholm+50のハイライト (9) / Highlights of Stockholm+50 (9)



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/johan-rockstrom-stockholm50-ld3-3june2022-photo>

学に基づく行動をしよう。

科学コミュニティからの評価としては、
「この50年間の取り組みは失敗だった」と言わざるを得ない。

地球の安定性を損なっている現在の状況は
正義とは呼べない。

地球の安定性を可能にする
法的な枠組みが必要だ。

政策・行動の評価・測定を、目に見える形で進める必要がある。

ヨハン・ロックシュトローム
ポツダム気候研究所 所長

Stockholm+50のハイライト (10) / Highlights of Stockholm+50 (10)

10の提言

- 健全な地球が平和、結束、繁栄する社会の前提条件であることを認識し、**人間の福利 (well-being) を健康な地球と万人の繁栄の中心に据える。**
- 1972年のストックホルム宣言の原則1に示されたビジョンを実現することにより、**クリーンで健全かつ持続可能な環境に対する権利を認識し実行する。**
- 健全な地球を取り戻すために、**現在の経済システム全体への変革を取り入れる**
- 健全な地球のための**既存の公約の国内実施を強化**する。
- **公共および民間の資金の流れ**を、環境・気候・持続可能な開発に関する公約と一致させる。
- 食料、エネルギー、水、建物、建設、製造、モビリティなど、**影響の大きいセクターのシステム全体の変革を加速**する。
- 協力と連帯を強化するために**信頼関係を再構築**する。
- **多国間システムを強化し再活性化**する。
- 健全な政策立案の基礎として、**世代間の責任を認識**する。
- ストックホルム+50の成果を前進させる。

Stockholm+50のハイライト (11) / Highlights of Stockholm+50 (11)



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth
<https://enb.iisd.org/media/inger-andersen-secretary-general-stockholm50-and-executive-director-un-environment-programme>

健全な環境に対する人権への思いを新たにする。

自然に対する罪は、人間に対する罪であり、将来の世代に対する罪である。

経済の再構築は待ったなしである。
影響の大きいセクターから取り組み、
循環型社会と脱炭素社会を実現していく必要がある。

会期中、ストックホルムの中心部でのユースによる気候ストライキを訪ねた。
我々は彼らの声を真摯に受け止めなければいけない。

1972年の成果としてUNEPが誕生した。
2022年の成果として、何を達成できるのか？
我々はしっかりと仕事をやり遂げなければならない。

インガー・アンダーセン UNEP事務局長 /
Stockholm+50 事務局長

まとめ / Takeaways

- **未来を決定する10年・行動の10年**の再認識
- 気候変動、生物多様性の損失、環境汚染の**環境分野の3つの危機**、さらには**SDGsの社会経済課題**に対する緊急の行動
- **UNEA5.2での新たな合意**の履行（プラスチック条約、化学物質に関する科学・政府間パネルなど）
- UNEP@50及びストックホルム+50を通じて確認された、**地球規模環境課題に対する共通の責任**を**多国間の協力**により果たしていく必要
- 我々がとるべき行動は**オプションではなく道義的責任**である
- **意思決定と実施プロセスへの非国家主体の関与**が不可欠

ご清聴ありがとうございました。